

第5回 **第1回日本放射線医療技術学術大会 (1st JCRTM)**

第40回日本診療放射線技師学術大会 (40th JCRT)

第52回日本放射線技術学会秋季学術大会 (52nd Autumn Scientific Congress of the JSRT)

沖縄への道 Go To OKINAWA

運営委員 石原 敏行

(一般社団法人沖縄県放射線技師会 常務理事 広報担当)



沖縄本島は大きく3つのエリアに分かれ、これまでに南部エリアと中部エリアを「沖縄への道 Go To OKINAWA」で紹介させていただきました。今回、最後のエリアとなる北部のお薦め観光スポットと、北部までの交通手段などを紹介させていただきます。

沖縄屈指の観光スポットでもある、世界トップクラスのサイズを誇る大水槽の**美ら海(ちゅらうみ)水族館**。見どころは、沖縄の沖合の海流を再現した巨大水槽「黒潮の海」。ジンベエザメやナンヨウマンタなど、大型の海の生き物が悠々と泳ぎ回る姿を間近に眺められ、1日3回開催される「**給餌プログラム**」では、生き物たちが餌を食べる迫力満点の様子が見られます。自然の美しさと生き物たちの神秘的な世界が堪能できます。

次に、世界遺産「**琉球王国のグスクおよび関連遺産群**」の一つである**今帰仁城(なきじんじょう)跡**。かつて沖縄本島北部を統治した北山(ほくざん)が暮らしていた城です。北部のいわゆる「やんばる」を守る要の城として13世紀頃に築城され、石灰岩を積み上げて造られた城壁の長さはおよそ1.5km。首里城にも匹敵するスケールです。薩摩藩の琉球侵攻に伴い1665年に廃城されましたが、祭礼を執り行う場所として残され、現在も人々の心のよりどころとしての役割を果たしています。

最後に、沖縄本島最北端の**辺戸(へど)岬**をご紹介します。晴れた日にはコバルトブルーの海の向こうに、鹿児島島の与論島まで望むことができます。かつてアメリカ合衆国統治下において本土に最も近い場所であったことから、本土復帰を願い、のろしを上げた地として「**祖国復帰闘争碑**」が建てられています。那覇空港から辺戸岬までおよそ120km。所要時間は、沖縄自動車道を利用した場合2時間半、一般道で約3時間かかります。時間を要しますが、最北の果てのドライブの先には、やんばるの雄大な自然と沖縄屈指の絶景が待っています。

この他にも、沖縄海岸国定公園の**万座毛(まんざも)**、沖縄の文化体験や伝統衣装体験ができる**琉球村**など、心を動かす絶景や観光スポットが数多く点在しています。ぜひこの機会に、沖縄ならではの体験をしていただき、全身で沖縄の魅力を感じてほしいと思います。

さて、沖縄で移動手段を考えるとときに思い浮かぶのがレンタカー、またはバスやタクシー・モノレール。しかし、意外と知られていない移動手段に「**高速船**」があります。移動手段とアクティビティーが一緒になった「一石二鳥」な二次交通としてお薦めです。



高速船「ジンベエ・マリン タクマ3」

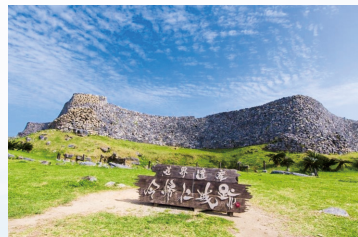
2019年就航、「新しい旅のスタイル」として登場した、那覇港と名護港・本部町渡久地港(もとぶちょうとぐちこう)を海上から結ぶ交通手段です。那覇から名護・本部間を75分で結ぶ**高速船「ジンベエ・マリン タクマ3」**は海路なので渋滞もなく、スムーズに目的地までアクセス可能となっています。途中、景勝地「**残波(ざんぱ)岬**」や「**瀬底(せそこ)大橋**」を海から眺め、運が良ければイルカやクジラにも遭遇できるかもしれません。冒頭でお薦めした「**美ら海水族館**」や「**フクギ並木**」へのアクセスにも最適なので、ぜひご利用ください。



限られた滞在時間ではございますが、美しい海や世界遺産など、見どころ満載のリゾート地「沖縄」をこの機会に満喫していただければと思っております。有意義な学術大会になるよう実行委員一同努めてまいりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。



美ら海水族館



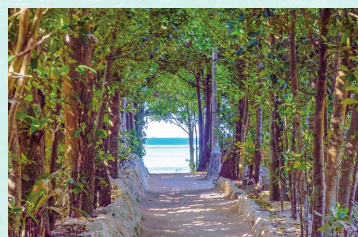
今帰仁城跡



辺戸岬の祖国復帰闘争碑



琉球村



フクギ並木